

## 2020 年度実施概要

学校名

矢掛町立川面小学校

採択活動名

演劇で海洋環境

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 川面から発信！星田川調べ隊	5 年	総合的な学習の時間
2. 矢掛再発見！	6 年	総合的な学習の時間
3.		

取り組みの概要

※当初、授業は6月～7月に実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響から11月実施に延期となった。

全3回（各回50分×2コマ）のプログラムで、海洋教育に関わる演劇的表現を用いたゲームと、演劇創作を行った。

講師およびアシスタントは、以下の4名に依頼した。

A チーム：講師 森谷 A

アシスタント 山中麻里絵

B チーム：講師 黒木陽子

アシスタント 大石達起

## 【第1回】

プロの俳優によるデモンストレーション劇の発表。その後、5・6年生混合の二チームに分かれ、コミュニケーションゲームの実施と、劇の続きを考える活動を行った。

なお、デモンストレーション劇およびコミュニケーションゲームは一般社団法人 ACCD コンソーシアムと、講師・アシスタントの監修の元、内容を検討し、実施した。

## &lt;デモンストレーション劇の内容&gt;

## ★あらすじ

宇宙旅行をしていた宇宙人たちが、宇宙船の動力であるボールを失い、地球の海に不時着をしてしまう。宇宙人たちは付近を散策し、動力のボールを探すことにするが……。

## ★狙い

地球の事を知らない宇宙人がアプリを使い地球の海について調べることで、海に関する情報を児童に伝える他、自分以外の生物を演じるきっかけとする。

### <コミュニケーションゲームの実施>

児童が自分の意見を言いやすい環境を作るためのゲームから、徐々に創作の活動に入って行く。  
ゲームの内容は、チーム毎に講師が児童の様子を観察しながら、流動的に内容を検討し、実施した。

#### ★A チーム

「ひとこと自己紹介」・・・車座になり、一人一言ずつ自己紹介を行った。児童が自分の事を自由に考え言葉に出すことで、この後自分の意見が言いやすい環境作りをした。また、児童と外部講師がお互いの事を知るためのコミュニケーションとしても機能した。

「ナイフとフォーク」・・・2人一組になり、与えられたお題を、言葉を使わずにチームでそれらを即興で表現した。

「海について知っていること」・・・海にはどんな場所があるのか、どんな生き物がいるのかを児童に質問した。シーン創作の要素となるだけでなく、これまでの学習でインプットしてきた内容をアウトプットする場としても機能する。

その後、上記で出た要素を元に、自分が演じたい役、場面のアンケートを取った。

#### ★B チーム

「ひとこと自己紹介」

「鏡」・・・講師と児童が向かい合わせに立ち、講師の動きを鏡のようにマネをしてもらった。

「歩く・止まる」・・・「鏡」から続けて

各チームには、第2回までの宿題としてワークシートを配布し、自分が演じる役・シーンについて希望を出し、自主練習を行ってもらった。

#### 【第2回】

1回目の授業とワークシートの内容をふまえて、講師が簡単な台本を作成し、児童に配布した。

台本作成にあたっては、①児童のヒアリングを元に完成させた台本を配布、②児童のヒアリングを元に作成した台本の結末を空けたもの、の2パターンを作成した。

これらは、次年度以降本授業を実施していくにあたって、授業のめあて、教員の性質等によって選択することを目的としている。

#### ★A チーム

最後のシーンを空白にした台本を配布した。最後のシーンを除き、台本の練習をした後、空白となっている箇所（「海に増え続けているゴミ問題を解決したい。その案を考えて欲しい。」）を全員で考え、合意の元、台本に反映した。先に自分たちが演じるシーンの練習をし、身体を使って役（海の生き物）について考える事で感受性と共感性が開いた状態となり、その上で海洋のゴミ問題について議論をすることで、自分たちの考える問題意識を、当事者性を持って検討することができるという意図による。

#### ★B チーム

完成した台本を配布した。台本の練習に先立ってコミュニケーションゲームを実践した。実施したコミュニケーションゲームは以下である。

「歩く&止まる」・・・

【第3回】

演劇の練習をした後、下級生や保護者の前で作った劇を発表した。

終演後、下級生や保護者から感想を聞く。

最後に振り返りを行い、3回の授業で感じたこと、話し合ったことなどを発表した。

活動中の写真

デジタルデータにて2~3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへの貼り付け、別ファイルでの添付、どちらでも構いません)

